



資産形成の学校

NISAの基本講座

必ず理解してね ✨
新NISAを徹底解説

【徹底比較】 つみたてNISAと新NISAの違い				
種類	現行NISA		新NISA	
	つみたてNISA	一般NISA	つみたて投資枠	成長投資枠
対象年齢	18歳以上			
投資できる期間	2023年12月末まで		2024年からいつでも（恒久化）	
非課税期間	最大20年間	最大5年間	無期限	
年間の非課税投資枠	40万円	120万円	合計360万円	
			120万円	240万円
生涯の投資上限 ※開始当時	800万円	600万円	1800万円 （成長投資枠：1200万円）	
投資方法	積立	スポット購入・積立	積立	スポット購入・積立
非課税枠の復活	復活しない	復活しない	売却した翌年に復活	
投資商品	金融庁の基準を満たす 投資信託・ETF	上場株式・ETF REIT・投資信託	金融庁の基準を満たす 投資信託・ETF	上場株式・ETF REIT・投資信託 （高レバ除く）

新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

① NISA制度の恒久化

人生100年時代に生きる私たちが長期で資産を形成できる最高の制度に

これまでのNISA

つみたてNISAの新規投資は
2037年まででNISAは終了

法改正で延長し新規投資は
2042年まででNISAは終了

利用できる期間が
わからず不安

2024年～新NISA制度

口座開設をして投資できる期間が
恒久化(ずっと利用できる)制度に変更

日本に住む18歳以上の方の
1人1人の超長期なライフプランに合わせて
自分で老後資金に備えることができるように。

安心して利用できる

① NISA制度の恒久化

人生100年時代に生きる私たちが長期で資産を形成できる最高の制度に

表3 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の年次推移

(単位: %)

和暦	男					女				
	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳
昭和22年	68.0	39.8	18.5	0.9	0.1	70.9	49.1	29.0	2.0	0.2
25-27	81.8	55.1	29.4	2.0	0.3	83.2	62.8	40.5	4.0	0.6
30	87.0	61.8	34.6	2.7	0.5	89.0	70.6	47.6	6.2	1.3
35	89.7	64.8	36.1	2.3	0.4	92.2	75.2	51.5	6.0	1.2
40	92.6	69.1	39.9	2.3	0.3	95.0	80.0	57.1	6.5	1.2
45	93.7	72.1	43.5	3.5	0.6	96.1	82.6	61.2	8.6	1.9
50	95.1	76.8	51.0	5.4	1.1	96.9	86.1	67.8	12.0	2.9
55	96.1	79.4	55.7	7.1	1.5	97.6	88.5	72.7	16.0	4.2
60	96.7	81.1	60.2	9.4	2.2	98.0	90.1	76.9	21.2	6.4
平成2	97.1	82.6	63.0	11.6	3.0	98.3	91.3	79.8	26.3	9.0
7	97.2	83.3	63.8	12.8	3.4	98.4	91.6	81.2	30.9	11.9
12	97.5	84.7	66.7	17.3	5.7	98.6	92.6	83.7	38.8	17.7
17	97.7	85.7	69.3	19.3	6.5	98.7	93.1	85.1	42.7	20.8
22	97.9	87.0	72.2	21.5	7.3	98.8	93.6	86.5	46.2	22.8
27	98.2	88.8	74.6	24.9	8.6	99.0	94.2	87.7	49.1	24.5
令和2	98.4	89.7	76.0	28.1	10.5	99.0	94.6	88.4	52.6	27.9
3	98.4	89.8	76.0	27.5	10.1	99.0	94.6	88.3	52.0	27.1

【男性】 生存する割合

◇90歳 ➡ 27.5% (4人に1人)

◇95歳 ➡ 10.1% (10人に1人)

【女性】 生存する割合

◇90歳 ➡ 52.0% (2人に1人)

◇95歳 ➡ 27.1% (4人に1人)



現実として、
人生100年時代の到来

注: 1) 令和2年以前は完全生命表による。

2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

出典: 厚生労働省 令和3年簡易生命表の概況

新NISA制度の重要ポイントは6つ

① NISA制度の恒久化

② 非課税で運用できる期間の無期限化

③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能

④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額

⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設

⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

② 非課税で運用できる期間の無期限化

制度によって決められていた運用期間の縛りがなくなり、自由度アップ

水色の範囲：今までのつみたてNISAの非課税期間

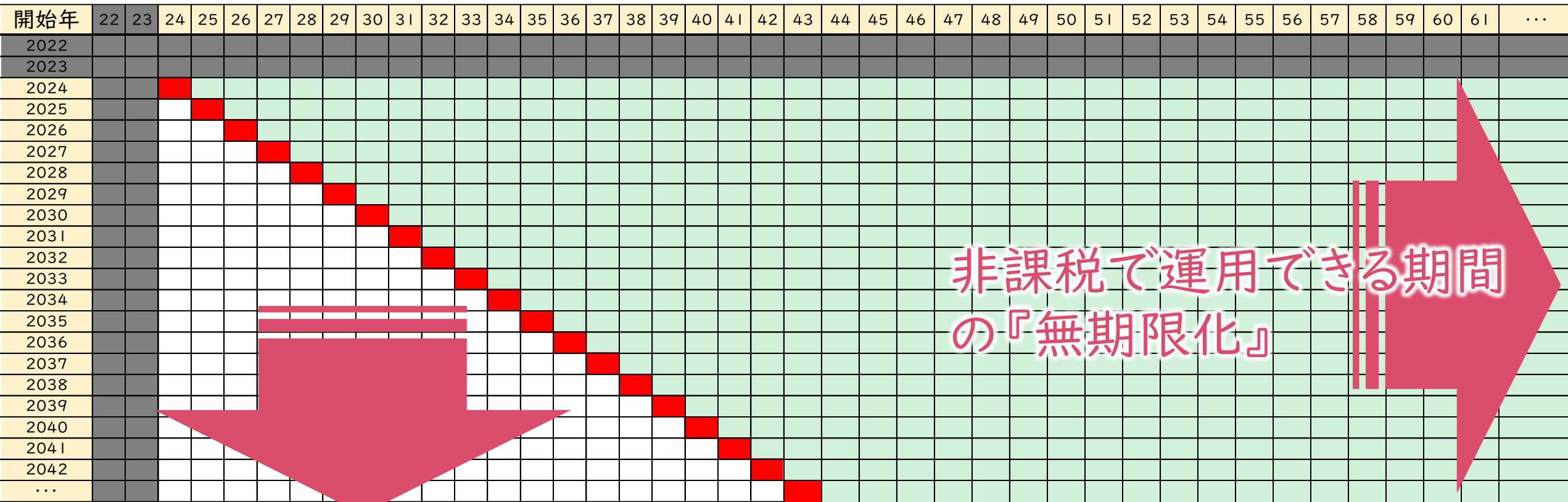
開始年	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61
2022	40																																							
2023		40																																						
2024			40																																					
2025				40																																				
2026					40																																			
2027						40																																		
2028							40																																	
2029								40																																
2030									40																															
2031										40																														
2032											40																													
2033												40																												
2034													40																											
2035														40																										
2036															40																									
2037																40																								
2038																	40																							
2039																		40																						
2040																			40																					
2041																				40																				
2042																					40																			

従来のつみたてNISAでは、2042年までしか利用できない上に、非課税期間も20年と短い

② 非課税で運用できる期間の無期限化

制度によって決められていた運用期間の縛りがなくなり、自由度アップ

緑色の範囲：新NISAの恒久化&非課税期間の無期限化



非課税で運用できる期間
の『無期限化』

投資できる期間の『恒久化』

② 非課税で運用できる期間の無期限化

非課税期間の無期限の恩恵は、長期投資であればあるほど最大化

例) 2024年に年間40万円投資をして、年利4%で2061年まで運用して売却した場合
つみたてNISAと新NISAでは、どれくらい非課税期間による金額の差ができるのか

◎ つみたてNISAの場合：2061年で売却した場合、約155万円（1,553,284円）
2043年まで非課税運用し、特定口座に移してから2061年まで運用する

[illegible]

◎ 新NISAの場合:2061年で売却した場合、約174万円(1,738,867円)
2061年までずっと非課税運用する

結論:約19万円(185,582円)
新NISAの方がお得

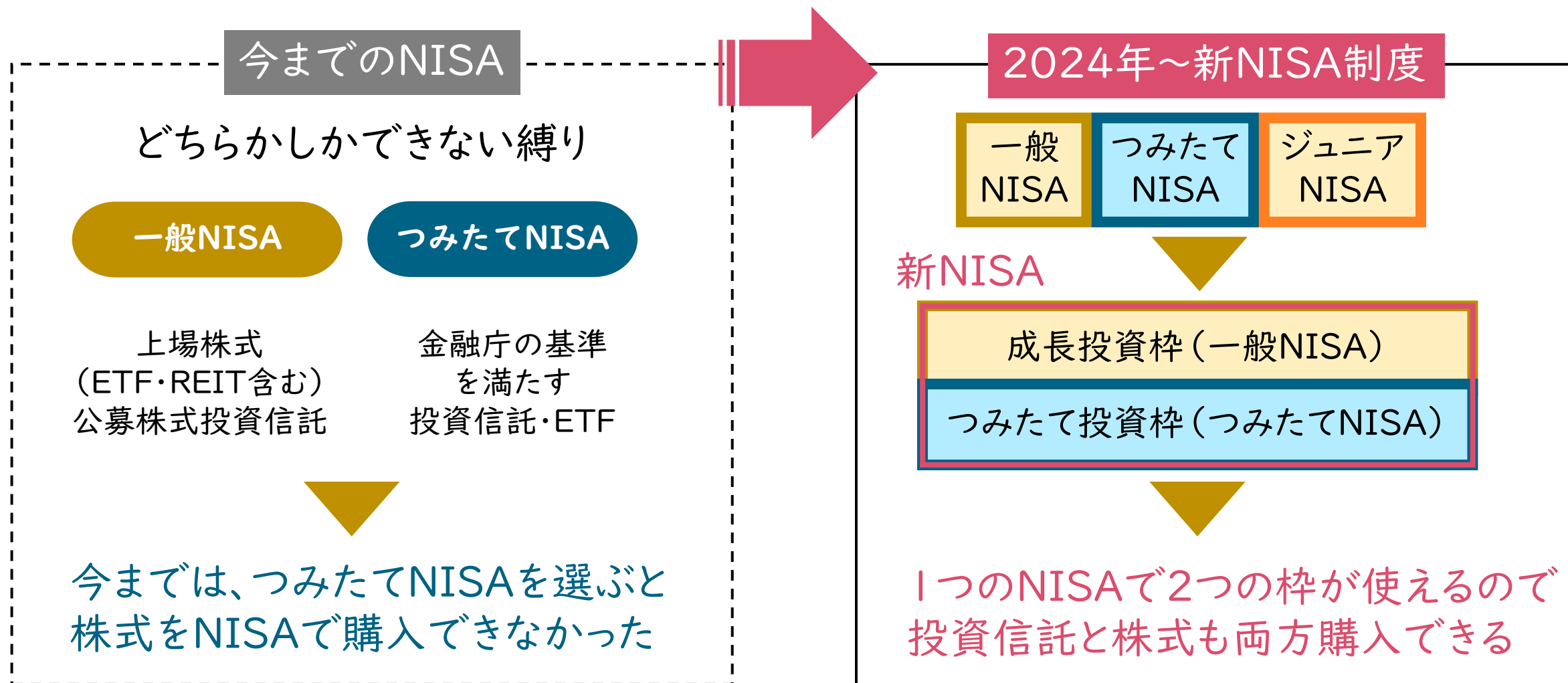
[illegible]

新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能

2つの投資枠を活用することで、1人1人の目的に応じた投資が可能



③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能

2つの投資枠を活用することで、1人1人の目的に応じた投資が可能

成長投資枠

年240万円（生涯上限1200万円）

上場株式・投資信託等

※高レバレッジ型や毎月分配型の投資信託や信託期間20年未満の投資信託は除外

つみたて投資枠

年120万円

**長期分散積立に適した
一定の投資信託**

※現行のつみたてNISAと同じ

◇ 成長投資枠の商品

投資信託

米国株

REIT

日本株

ETF

ETN

商品数は
数万以上

◇ つみたて投資枠の商品

投資信託

ETF

商品数は
235本のみ

※2023年6月30日現在

※新NISAの生涯投資上限1800万円

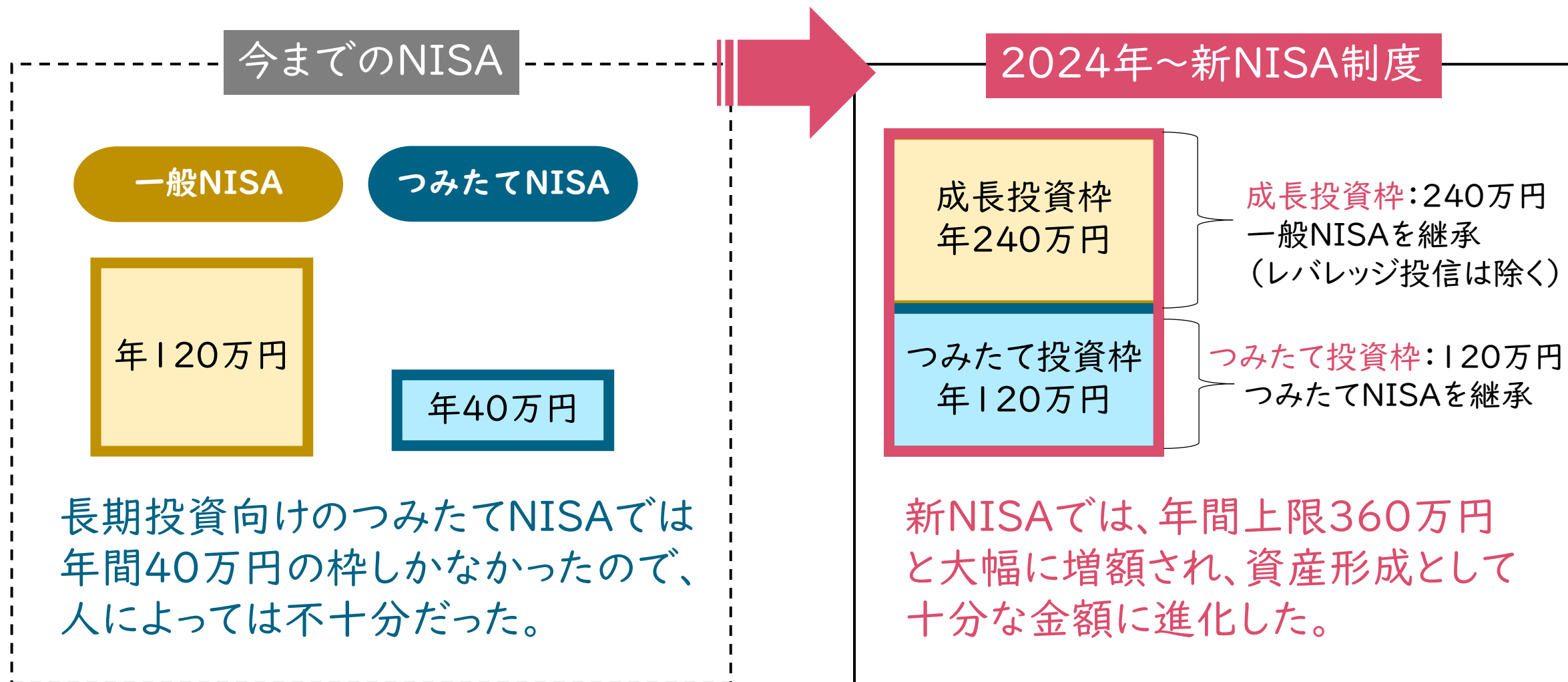
今まで以上に商品選んで戦略が変わる

新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額

老後の安心を叶える資産形成のためには、十分な金額に進化



④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額

老後の安心を叶える資産形成のためには、十分な金額に進化

注意点①

新NISAの年間360万円は2024年から投資をする分からの金額であるため、
今までのつみたてNISAや一般NISAや特定口座の商品を移すことはできません。

注意点②

新NISAの投資枠には、買付手数料は含まれていませんので、
例えば、年間240万円成長投資枠で株式を売買したときに手数料がかかっても
この240万円の枠には含みません。

注意点③

いつはじめたとしても1月1日から12月31日まで（受渡日が商品によって異なる）
を1年間として考えるため、例えば10月にはじめたとしても投資できる期間は2カ月になる

新NISA制度の重要ポイントは6つ

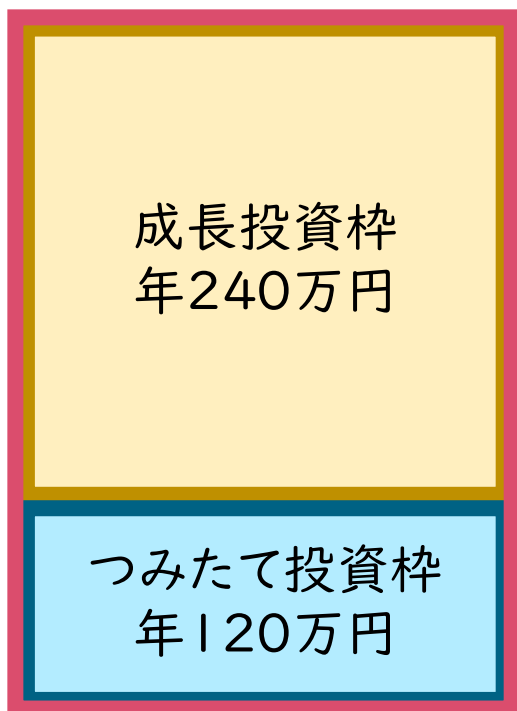
- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設

1800万円という上限はできたけれど、老後に向けた資産形成としては十分

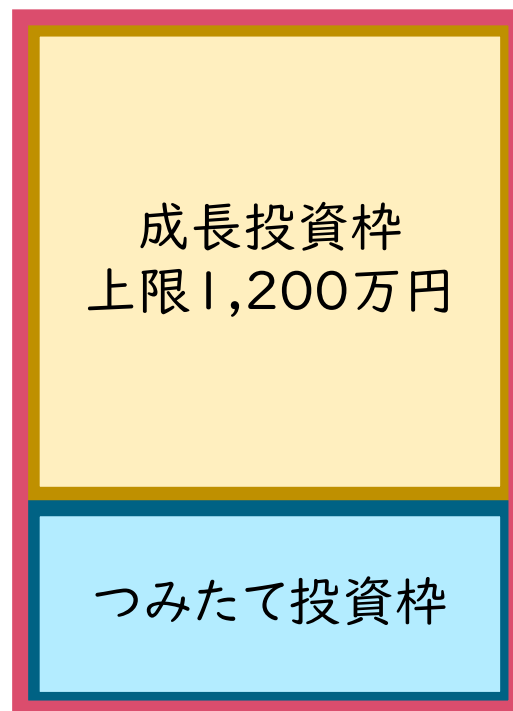
年間投資上限額

年間360万円まで投資可



生涯投資上限額

生涯1,800万円まで投資可



『生涯投資上限額』が新設
一生のうちに投資可能な
上限額は成長投資枠と
つみたて投資枠を合わせて
1,800万円という意味!

ただし、1,800万円のうち
**成長投資枠上限は
1,200万円まで**

つみたて投資枠上限は、
600万円~1,800万円

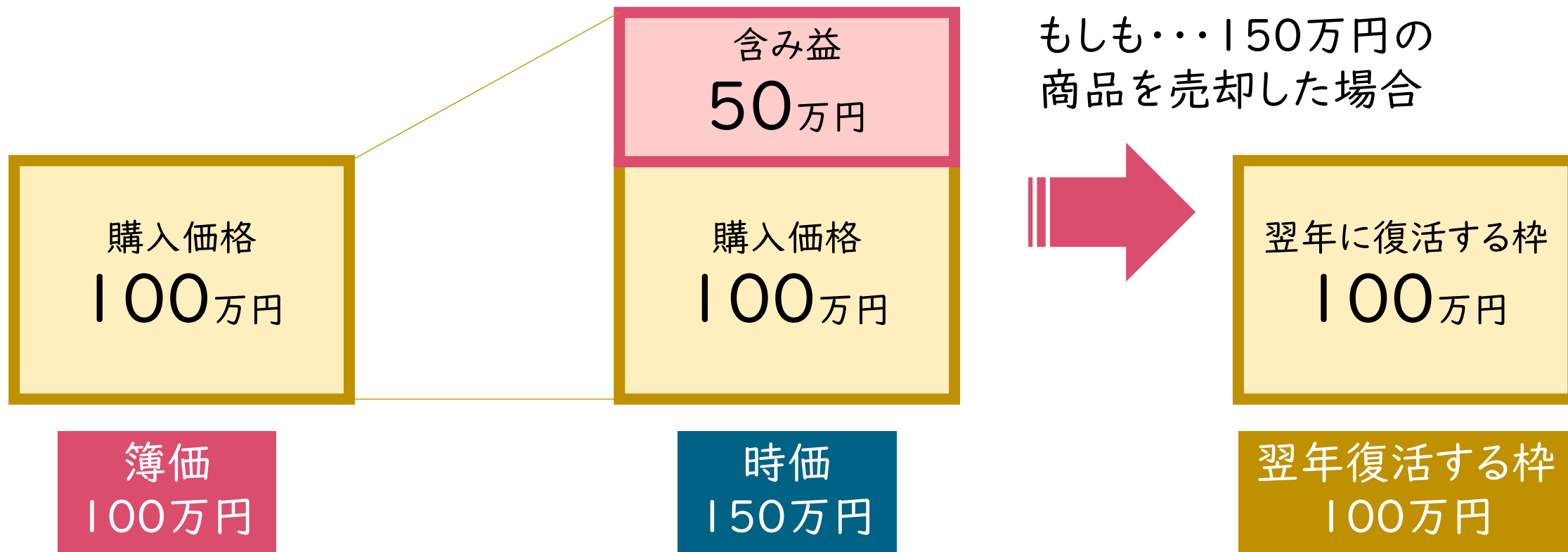
新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活

投資上限額は、時価（現時点の価格）ではなく、簿価（購入価格）で計算

例) 新NISAで100万円で購入した商品が、値上がりした150万円になった。
この150万円になった商品を売却した場合、翌年復活する投資枠は、簿価の100万円になる



まとめ 新NISA制度の重要ポイントは6つ

- ① NISA制度の恒久化
- ② 非課税で運用できる期間の無期限化
- ③ 成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能
- ④ 1年間の投資上限は年間360万円に増額
- ⑤ 生涯の非課税限度額が最大1800万円で新設
- ⑥ 途中売却しても翌年、投資枠が復活